

平成18年度岩手県立総合教育センター

中学校国語科における基礎的・基本的な内容の  
確実な定着を図るための指導に関する研究  
- Gアップシートの  
診断的な評価シートとしての活用をとおして -  
(第1報)

研究協力校  
花巻市立宮野目中学校

岩手県立総合教育センター  
教科領域教育室  
羽 柴 ル ミ

## 目 次

|  |   |
|--|---|
| 研究目的   | 1 |
| 研究の方向性   | 1 |
| 研究の年次計画  | 1 |
| 今年度の研究内容与方法  | 2 |
| 1 目標   | 2 |
| 2 内容与方法  | 2 |
| 3 研究協力校  | 2 |
| 研究結果の分析と考察   | 2 |
| 1 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する研究についての基本的な考え方 | 2 |
| (1) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着とは                       |   |
| (2) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導改善の方向            | 2 |
| (3) Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用について                        | 3 |
| (4) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する基本構想図        | 7 |
| 研究のまとめ   | 9 |
| 1 研究の成果  | 9 |
| 2 今後の課題  | 9 |

〔おわりに〕

【引用文献】

【参考文献】

## 研究目的

評価に基づいた指導の充実を図り、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るためには、単元及び単位時間ごとの目標を明確にし、指導に生きる評価を行う必要がある。そのためには、これから開始する指導に関する学習上の課題を客観的に把握した上で授業を構想しなければならない。単元ごとに評価規準を設定し、単位時間の具体の評価規準を明らかにすることが重要であり、診断的な評価問題の活用により指導内容の重点化を図るとともに、個に応じた指導の手だてを準備して授業に臨むことが大切である。

しかし、国語科においては、教科書の学習材についての学習到達目標は示してはいるものの、それが国語科としてどのような力の定着を目指すものであるか生徒に具体的な形として理解させることは難しい。そのために、「国語は何ができればよいのか分からない。」「国語は何をどう勉強すればよいのか分からない。」という生徒の声を聞くことが多い。これは、教師が教科書の学習材を教えることだけに意識が集中し、評価規準に基づく学習到達目標について、どのような力を身に付けるための学習であり、何ができればよいのかを生徒に示していないこと、学習を進める上での個々の課題を十分に把握しないまま授業をしているために授業時間内に適切な指導がなされないことが原因であると思われる。

このような状況を改善するためには、これからどんな力を付けるための学習が始まり、何ができればよいのか生徒自身に具体的なイメージをもたせること、評価規準に基づく評価問題で構成したGアップシートを診断的な評価シートとして活用することにより、重点とする指導を定めて実際の授業場面で想定される個々のつまずきに対処できる授業を構想し、指導の改善に役立てることが必要である。

そこで、この研究は、中学校国語科において、Gアップシートを診断的な評価シートとして活用することをとおして、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導について明らかにするものである。

## 研究仮説

中学校国語科において、Gアップシートを診断的な評価シートとして活用し、次のような手順で個々のつまずきに対処できる授業を行えば、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることができるであろう。

- 1 既習事項の定着状況を生徒自身に確認させる
- 2 指導内容を重点化する
- 3 個に応じた指導の手だてを準備する

## 研究の年次計画

この研究は、平成18年度から19年度にわたる2年次研究である。

### 第1年次（平成18年度）

中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する基本的な考え方の検討及び基本構想を立案し、指導試案の作成、指導計画の作成、指導計画に基づく指導実践をとおして改善点を明らかにする。

### 第2年次（平成19年度）

第1年次に明らかにしたGアップシートの活用の診断的な評価シートとしての活用について、

改善点を基に指導実践を行い、その有効性についてまとめる。

## 今年度の研究内容与方法

### 1 目標

中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する基本的な考え方を検討し、その基本構想を立案する。また、それに基づいて指導試案及び指導計画を作成し、指導実践をとおして改善点を明らかにする。

### 2 研究内容与方法

- (1) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する基本的な考え方の検討及び基本構想の立案（文献法）
- (2) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する試案の作成（文献法）
- (3) Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用についての指導計画の作成（文献法）
- (4) Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用についての指導計画に基づく指導実践（指導実践）
- (5) 指導実践の分析と考察（指導実践・調査法）
- (6) Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用についての改善点の明確化

### 3 研究協力校

花巻市立宮野目中学校

## 研究結果の分析と考察

### 1 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導についての基本的な考え方

- (1) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着とは

中学校国語科における基礎的・基本的な内容とは、学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容である。基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るためには、学習指導要領に示されている目標及び内容を理解し、三領域一事項のそれぞれの指導事項について身に付けるべき力を適切にとらえることが重要である。これにより、学習活動における到達目標と到達の姿を具体的に生徒に示しながら指導し、到達目標を実現させるための適切な手だてを講じることができる。

本研究では、「基礎的・基本的な内容の確実な定着」を、学習指導要領に示された指導事項が身に付いた状態とする。単元及び単位時間ごとの目標を明確にするとともに具体の評価規準を明らかにし、指導過程における個々のつまずきに適切に対処することにより基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることができると考え、研究を進める。

- (2) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導改善の方向

生徒一人一人に基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるためには、教科の目標を実現するための内容の重要度や生徒の実態に応じて、その取り扱いの軽重を考えて指導計画を作成することが大切であると学習指導要領に示されている。さらに国語科の目標を実現するための学

習活動について、指導事項に即し厳選して組織し、生徒の定着状況に応じた指導の工夫と改善を加える必要があるとも示されている。

本県が平成17年度学習定着度状況調査と同時に実施した質問紙調査の結果の分析及び考察によると、「学校での勉強がよくわかる」と「学校での勉強が、自分の力を伸ばすのに役立っていると思う」という二つの質問について、国語科では各学年とも「どちらかというとはまらない」「あてはまらない」という否定的な回答が肯定的な回答を上回る結果であった。このことから、生徒に指導目標を明確に示すとともに、生徒の実態に応じて重点化された指導が望まれることがわかる。

また、平成15年度から平成17年度に県内で実践された21件の授業の学習指導案を分析したところ、生徒観について、単元の指導目標にかかわる身に付けたい力の実態を示しているものが11件であった。その内訳は教師の観察によるものが8件、標準学力検査等を活用したものが2件、教師の自作の事前テストによるものが1件であった。なお、標準学力検査等を活用した2件については、いずれも実施時期と授業実践までの期間に6ヶ月以上の開きがあった。生徒観に示される生徒の実態把握の方法として、日頃の授業の様子を基に教師が判断することが大切であるが、より具体的に学習上の課題を把握するためには、単元に入る前にその単元の学習と関連する既習事項の定着状況を客観的な視点で確認することも並行して行う必要がある。

このことから単元及び単位時間の授業において、どのような力を身に付けるための勉強であるか、何ができればよいのか、どこが分からないのかを生徒に明確に示した上で、どのように勉強すれば分かるようになるのか個々の実現状況に応じて具体的に知らせながら指導することが重要であると考えた。

以上のことから、本研究における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導改善の方向として次の四点を掲げる。

- ア 単元及び単位時間の目標を明確にする。
- イ 単元の評価規準及び単位時間の具体的評価規準を明確にする。
- ウ 既習事項の定着状況を把握するために診断的な評価を実施する。
- エ 診断的な評価を活用した指導計画を作成し、指導内容の重点化と個々の課題に応じた具体的な指導の手だての準備に役立てる。

### (3) Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用について

#### ア Gアップシートとは

本県の学力向上に資するよう内容を検討した評価規準いわてスタンダードに示した「中核となる力」に対応して作成した評価問題で構成した学習シートのことであり、次のような特徴がある。(詳細は「中学校国語科、数学科、英語科における学力向上を図るための研究 - Gアップシートの作成をとおして - 」(2006)参照)

- ・三領域一事項の身に付けさせたい力に対応した問題を出題している
- ・初見の内容の問題を出題している
- ・論理的な思考力を養うような問題を出題している
- ・無解答への対応として、記述式の問題を出題している

(ア) いわてスタンダードとは

学習指導要領及び国立教育政策研究所作成の評価規準を基に、本県の生徒の実態をふまえて、生徒に身に付けさせたい中核となる力を明確に示したものである。

(イ) 中核となる力とは

生徒に身に付けさせたい力を具体的な指導レベルで明示したものの。

イ 診断的な評価シートとは

ブルーム（1956）は評価を機能面から、診断的評価、形成的評価、総括的評価の三つに分類した。診断的評価の目的として、学習者の配置（学習のコース分けや習熟度別編成）、学習指導の計画、補充指導に役立てることが挙げられている。尾木（2001）は国語科における学習活動の充実に生きる評価の一つとして、診断的な評価について「学習指導を開始するに当たり、これからの指導を有効適切なものにするために子どもの実態を把握しようとするもの」としている。本研究における診断的な評価シートとは、これから指導を開始する単元について、既習事項の定着状況や不足の学力など個々の学習上の課題を把握することにより指導内容の重点化を図るためのものである。

ウ Gアップシートを診断的な評価シートとして活用することの意義

中学校国語科においては、指導内容の重複や欠落がないよう学年間や学習単位ごとの系統性や発展性に十分配慮して指導する必要があるため、既習事項の定着状況を適切に把握した上で指導計画を立てることが重要である。いわてスタンダードに示した中核となる力に対応するGアップシートを診断的な評価シートとして活用することの意義は次の四点である。

これから開始する学習に関連する既習事項の定着状況について、生徒自身に確認させることができる

初見の内容の問題を出題しているため、既習事項の定着状況について客観的な評価結果が得られる

評価結果に基づき生徒の実態に合わせて指導内容を重点化した指導計画を立てることができる

実際の授業場面でのつまずきを予測し、個に応じた具体的な指導の手だてを準備して授業に臨むことができる

エ Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用の仕方

Gアップシートによる診断的な評価の手順を以下に示す。初めに単元の目標について設定し、その目標を実現するために必要な指導事項を明確にする。次に既習事項を確認しGアップシートを活用して診断的な評価を行う。Gアップシートの内容や実施時間が生徒の負担とならないよう配慮が必要である。シートの各問いごとに中核となる力を示す項目が示されているので、評価しようとする内容に合わせて問題を選択して実施することもできる。前単元の学習終了時や朝学習等の時間を利用し、15分程度で終了することが望ましい。採点は教師が行い、個々の学習上の課題を把握し、これを基に単元の指導内容の重点化に役立てる。採点後のシートを生徒に返却する際には、できなかった問題について、どのようにすればできるようになるのか具体的なアドバイスを行い、家庭学習等で取り組ませる。さらに、この評価結果に基づき、これから開始する授業の中でのつまずきを予測し、個に応じた指導の手だ

てを準備して指導計画を立案する。Gアップシートによる診断的な評価結果は、学習コースの編成や学習シートの工夫、学習上の課題に応じた個別指導に役立てることができる。

#### **Gアップシートによる診断的な評価の流れ**

- 1 単元の目標を設定する
- 2 目標を実現するために必要な指導事項を確認する
- 3 目標を実現するために必要な既習事項についてGアップシートを活用して診断的な評価を行う
- 4 学習上の課題を把握する
- 5 指導内容を重点化する
- 6 指導の手だてを準備する
- 7 指導計画を立案する
- 8 授業を行う
- 9 単元の終了時に指導内容の定着状況を確認する

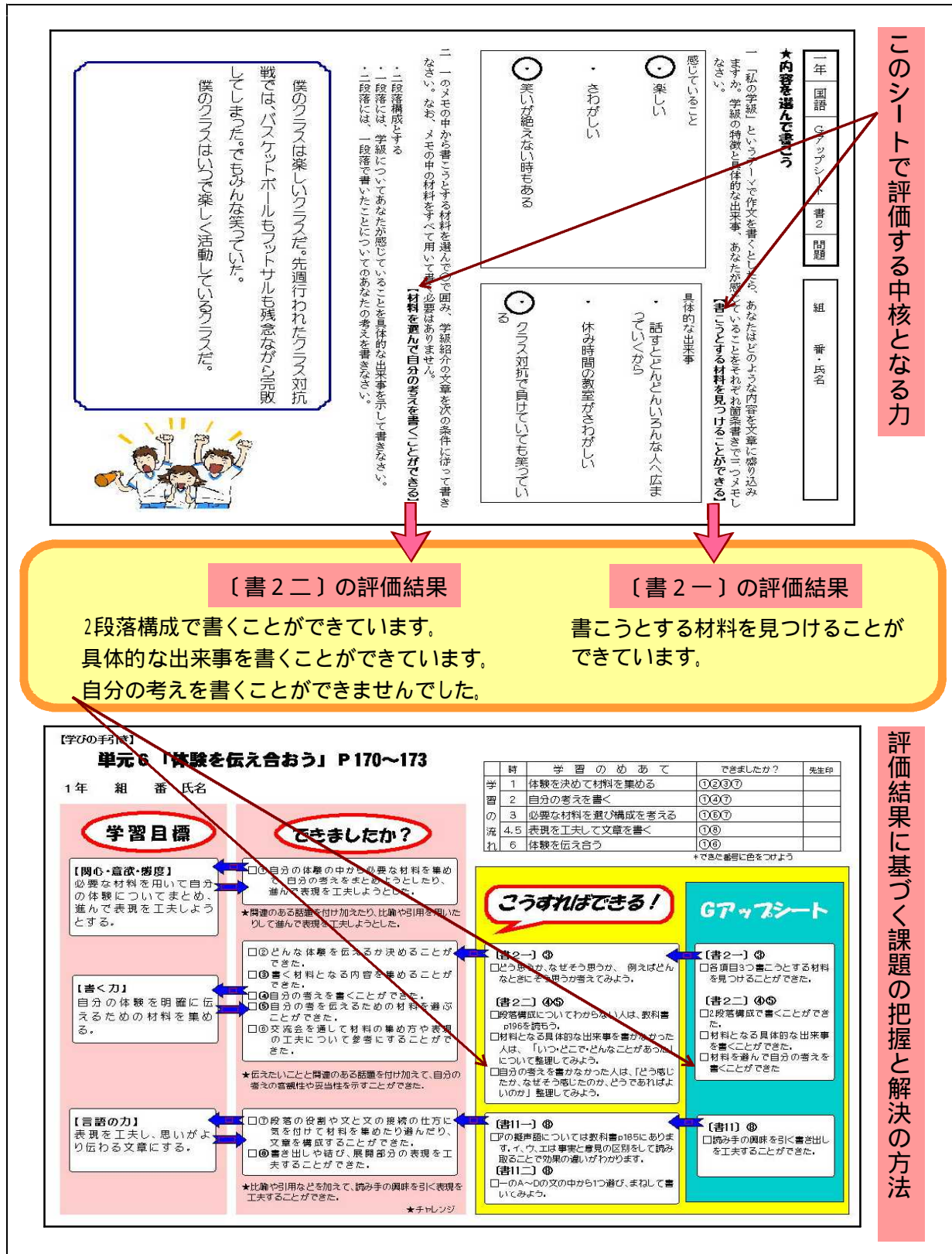
#### オ 「学びの手引き」の活用について

生徒にGアップシートによる評価結果を理解させた上で単元の指導を開始することにより、指導内容の定着を図ることが期待できる。そのためには、評価結果に応じた学習の進め方を示したものが必要である。そこで、「学びの手引き」を作成して活用することにした。「学びの手引き」とは、いわてスタンダードの中核となる力について、生徒が理解した上で学習を進めることができるように授業で活用させるものである。「学びの手引き」には次のような特徴がある。

- ・これから始まる学習がどのような力を身に付けるためのものであるか生徒に理解させることができる
- ・この学習では何ができればよいのか、具体的な到達の姿を生徒に示すことができる
- ・この単元の学習で特に重要となる既習事項についての定着状況を生徒に確認させることができる
- ・既習事項の定着が不十分な場合の学習の進め方について授業や授業以外の学習でどのようにすればできるようになるか生徒が分かるように示すことができる
- ・単元の学習計画と単位時間ごとの学習のめあてが示しており、生徒に毎時間の学習の振り返りをさせることができる

次頁【図1】の診断的な評価の結果、既習の中核となる力の定着が不十分であり、これから始まる学習過程でつまずきが予想される生徒は、「学びの手引き」を使いながら学習上の課題と解決の方法を知ることができる。教師もまた、このような生徒に対してシートの内容のみに焦点をあてた指導に終わることなく評価結果から明らかになった学習上の課題が今後の学習にどのように関連するか生徒に示しながら指導することができる。【図1】は第1学年の学習材「体験を伝え合おう」(光村図書)での活用を例としたGアップシートによる評価結果と「学びの手引き」との関連を示すものである。9頁【図2】は「学びの手引き」といわてスタンダードに基づく指導計画との関連を示したものである。いわて

スタンダードに基づく指導計画は、「学びの手引き」と対応しており、Gアップシートによる評価結果から、授業の中でのつまずきを予想し、個に応じた指導の手だてを準備して指導計画を立案することができる。



【図1】Gアップシートによる診断的な評価結果と「学びの手引き」との関係



Gアップシートの  
評価結果により重  
点化された単元の  
学習目標

～ は単元の目  
標に到達するた  
めの中核となる力

既習事項  
が定着してい  
ない生徒への指導内容

Gアップシートに  
示してある中核と  
なる力

【学びの手引き】  
単元6「体験を伝え合おう」P170～173

1年 組 番 氏名

| 時   | 学習のめあて         | できましたか? | 先生印 |
|-----|----------------|---------|-----|
| 1   | 体験を決めて材料を集める   | ①②③⑦    |     |
| 2   | 自分の考えを書く       | ①④⑦     |     |
| 3   | 必要な材料を選び構成を考える | ①⑥⑦     |     |
| 4,5 | 表現を工夫して文章を書く   | ①⑧      |     |
| 6   | 体験を伝え合う        | ①⑧      |     |

★できた番号の色を塗りよう

**学習目標**

【関心・意欲・態度】  
必要な材料を用いて自分の体験についてまとめ、進んで表現を工夫しようとする。

【書く力】  
自分の体験を明確に伝えるための材料を集める。

【言語の力】  
表現を工夫し、思いがよび伝わる文章にする。

**できましたか?**

①自分の体験の中から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとしたり、進んで表現を工夫しようとした。

★関連のある話題を付け加えたり、比喩や引用を用いて進んで表現を工夫しようとした。

②どんな体験を伝えるか決めることができた。

③書く材料となる内容を集めることができた。

④自分の考えを書くことができた。

⑤自分の考えを伝えるための材料を選び、工夫することができた。

⑥文脈を通して材料の集め方や表現の工夫について参考にすることができた。

★伝えたいことと関連のある話題を付け加えて、自分の考えの官能性や妥当性を示すことができた。

⑦段落的役割や文と文の接続の仕方に気を付けて材料を集めたり選んだり、伝えたいことを的確に表すために必要な材料を集めた。

⑧自分の文章を読み、伝えたいことや材料の集め方や書き出しの工夫について参考にすることができた。

★比喩や引用などを加えて、読み手の興味を引く表現を工夫することができた。

★チャートリッジ

**こうすればできる!**

【書2-1】⑧  
□どう思うか、なぜそう思うか、例えばどんなときにそう思うか考えてみよう。

【書2-2】⑧⑨  
□段落構成についてわからない人は、自分の文章を参考にしよう。

□自分の考えがなかった人は、「何を感じたか、なぜそう感じたのか、どうすればよいのか」整理してみよう。

【書11-1】⑧  
□自分の文章について、教科書p185にある「イ、ウ、エ」は事実と意見の区別をして読み取ることで効果の違いがわかります。

【書11-2】⑧  
□A～Dの文の中から1つ選び、まねして書いてみよう。

**Gアップシート**

【書2-1】⑧  
□項目9つ書こうとする材料を見つめることができた。

【書2-2】⑧⑨  
□材料を選んで自分の考えを書くことができた。

【書11】⑧  
□読み手の興味を引く書き出しを工夫することができた。

「学びの手引き」

評価結果から予想したつまづきへの具体的な指導の手立て

◆国語科◆ 単元の指導と評価の計画表 (第1学年) 単元6 教材名「体験を伝え合おう」(光村図書)

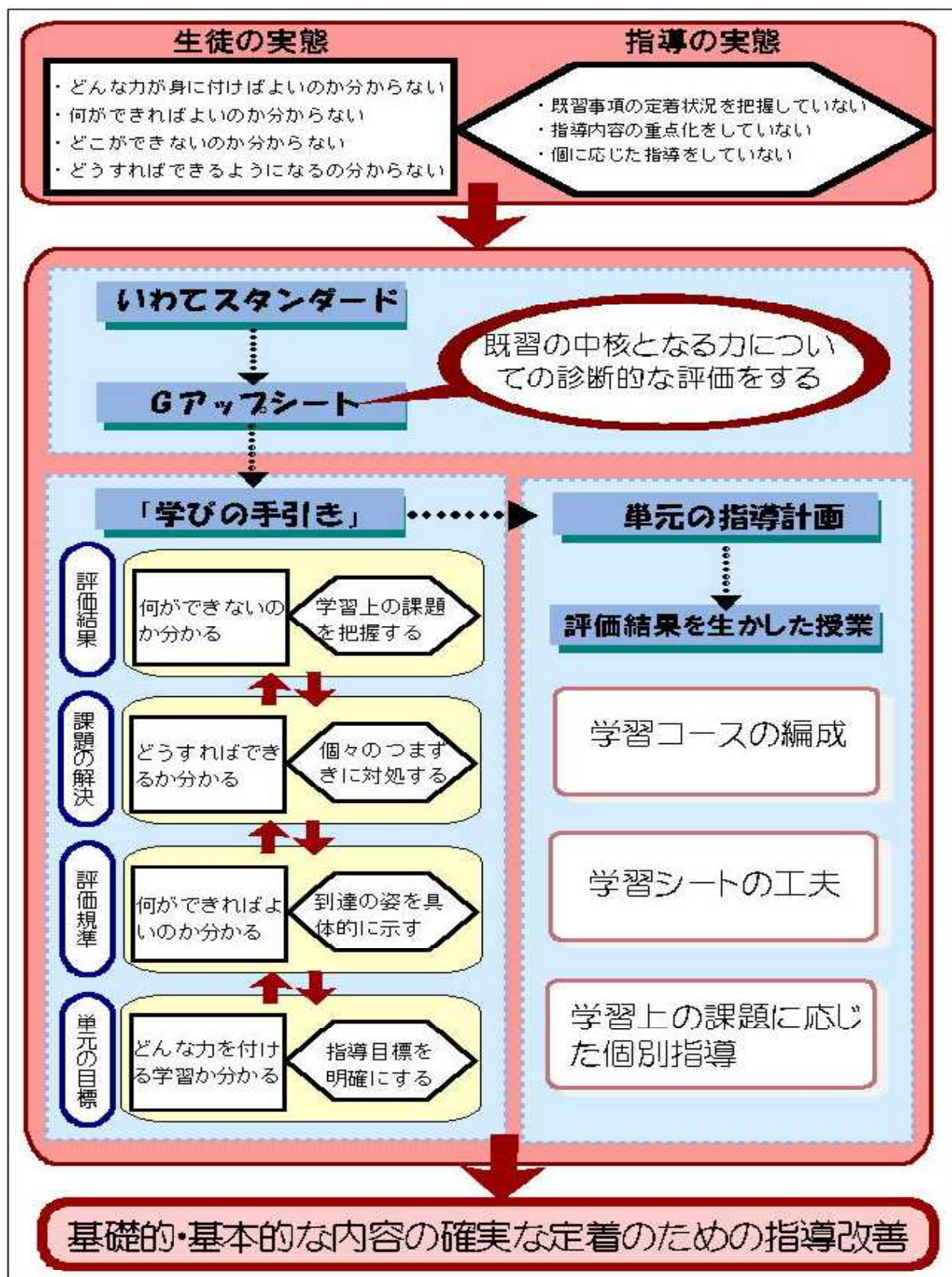
| 指導目標   | 指導計画(全6時間)   | 単元時間ごとの計画  | 第1時   | 第2時  |
|--|--|--|---|--|
| 必要材料を用いて自分の体験についてまとめ、進んで書き表そうとする(1)(2)<br>自分の体験の中から伝えようとすることを決め、明確に伝えるための材料を集めて自分の考えをまとめようとする(2)(5)<br>自分の文章を読み、伝えたいことや材料の集め方や書き出しの工夫について確かめ、自分の表現の参考にする(2)(5)<br>自分の文章の役割や文と文の接続の仕方に気を付けて材料を集めたり選んだり、伝えたいことを的確に表すために必要な材料を集める(2)(5)<br>自分の文章を読み、伝えたいことや材料の集め方や書き出しの工夫について参考にすることができた。 | ①関心・意欲・態度<br>②書く能力<br>③言語の力<br>④自分の体験の中から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとしたり、進んで表現を工夫しようとする。<br>⑤自分の考えを書くことができた。<br>⑥自分の考えを伝えるための材料を選び、工夫することができた。<br>⑦段落的役割や文と文の接続の仕方に気を付けて材料を集めたり選んだり、伝えたいことを的確に表すために必要な材料を集めた。<br>⑧自分の文章を読み、伝えたいことや材料の集め方や書き出しの工夫について参考にすることができた。<br>⑨自分の文章の役割や文と文の接続の仕方に気を付けて材料を集めたり選んだり、伝えたいことを的確に表すために必要な材料を集めた。 | 国語への関心・意欲・態度<br>書く能力<br>言語の力<br>自分の体験の中から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとしたり、進んで表現を工夫しようとする。<br>自分の考えを書くことができた。<br>自分の考えを伝えるための材料を選び、工夫することができた。<br>段落的役割や文と文の接続の仕方に気を付けて材料を集めたり選んだり、伝えたいことを的確に表すために必要な材料を集めた。<br>自分の文章を読み、伝えたいことや材料の集め方や書き出しの工夫について参考にすることができた。 | ①身近な生活の中から課題を見付けることができる。<br>②課題をもとに、書くための材料を集めることができる。<br>③自分の考えを書くことができる。<br>④伝えたい事実や自分の考えを基に、自分の文章の役割や文と文の接続の仕方に気を付けて材料を集めたり選んだり、伝えたいことを的確に表すために必要な材料を集めた。<br>⑤自分の文章を読み、伝えたいことや材料の集め方や書き出しの工夫について参考にすることができた。 | ①自分の体験の中から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとしたり、進んで表現を工夫しようとする。<br>②自分の考えを書くことができた。<br>③自分の考えを伝えるための材料を選び、工夫することができた。<br>④自分の文章の役割や文と文の接続の仕方に気を付けて材料を集めたり選んだり、伝えたいことを的確に表すために必要な材料を集めた。<br>⑤自分の文章を読み、伝えたいことや材料の集め方や書き出しの工夫について参考にすることができた。 |

いわてスタンダードに基づく指導計画

【図2】いわてスタンダードに基づく指導計画と「学びの手引き」との関連

(4) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導についての基本構想図

これまでの基本構想を基に、中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する基本構想図を次頁【図3】のように作成した。



【図3】中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導についての基本構想図

## 研究のまとめ

### 1 研究の成果

この研究は、中学校国語科において、Gアップシートを診断的な評価シートとして活用することとおして基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導について明らかにするものである。本年度は、中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する基本的な考え方を検討し、その基本構想を立案した。

ここでは、これまでの研究内容について、明らかになったことについてまとめる。

#### (1) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する基本的な考え方の検討

文献を基に、中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導改善の方向とGアップシートを診断的な評価シートとして活用することの意義と活用の仕方について明らかにすることができた。これによって、中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する基本的な考え方を検討し、基本構想を立案することができた。

#### (2) Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けけた指導試案の検討

基本構想の立案により、中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る指導のためにGアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けけた指導試案について検討し、それに基づいた指導計画の作成及び三月に行う指導実践の見通しをもつことができた。

### 2 今後の課題

第2年次の研究では、本年度の研究成果を踏まえて、中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する試案の作成とそれに基づいた指導計画の作成を行う。さらに指導実践を行い、その分析と考察をおして中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する研究のまとめを行う。

〔おわりに〕

この研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力校の先生方に心からお礼を申し上げます。

#### 【引用文献】

尾木和英(2001),『評価で変わる国語の授業』,三省堂,p.78

#### 【参考文献】

尾木和英(1999),『提言国語科授業改善十二章』,三省堂

北尾倫彦(1986),『新しい評価観と学習評価』,図書文化

高木一郎(1981),『到達度評価とその生かし方』,図書文化

橋本重治(1983),『続・到達度評価の研究』,図書文化

森敏昭 秋田喜代美(2000),『教育評価重要語300の基礎知識』,明治図書

吉田辰雄(1985),『教育評価の倫理と実践』,福村出版